

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	アルゴリズムとデータ構造
科目基礎情報				
開設学科	ITスペシャリスト科	コース名	セキュリティ専攻	開設期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数
単位数	2単位			授業形態
教科書/教材	アルゴリズムとデータ構造問題集、アルゴリズム解法(リックテレコム)			
担当教員情報				
担当教員	藤本 海艶・鈴木 睦男	実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
学習目的				
本授業は、「プログラミング基礎」の科目と連携し補完しあいながら進めていく。本授業は、最も一般的な言語のひとつであるC言語を通してプログラミングの基礎的な能力を身につけてもらうことを目的として行う。アルゴリズムの説明と演習を通して、プログラミングの概念や基本的な考え方を学ぶ。プログラムを作成する上で基本となる型や変数、演算、制御構造(条件文、繰り返し文)などについて基礎から学習する。この授業では、論理的な思考能力、実習に基づく専門能力、問題解決力を、身につけることを目的としている。				
到達目標				
プログラムを作成にするにあたって、言語の文法の習得だけでは自由にプログラムを作成することができない。アルゴリズムを理解し、自身が考える処理を流れ図にに当てはめて作成できるようになることが目標である。更に、アルゴリズムを十分理解したうえでプログラミングを作成する上で基本となる型や変数、演算、制御構造(条件文、繰り返し文)などを利用したプログラムの読み解きと作成ができるようになることを目標とする。(論理的な思考能力・実習に基づく専門能力・問題解決力)				
教育方法等				
授業概要	本授業では、アルゴリズムや流れ図の表記を理解し、実行環境の使用方法を習得する。プログラムを考えるうえで定石となるアルゴリズムを理解し、アルゴリズムを流れ図(フローチャート)として表記していく。その流れ図をもとに、基本文法を覚えていく。まず、基本構造となる、順次構造、分岐構造、反復構造を取得する。基本構造を組み合わせることで複雑な処理や判定が行えるように理解を進めていく。更に配列などのデータの集合体に対して、並べ替えや検索などの情報処理の基本的なプログラムをマスターしていく。			
注意点	テキスト、問題集、ノート、筆記用具、ノートパソコンを必ず持参すること。毎回の授業は、前の回までの授業の内容が身についてことを前提に行うため、必ず復習を行うこと。授業時間内に終わらなかった演習問題があった場合には、各自で次の授業までに終わらせておくこと。授業に出席するだけでなく、社会人への移行を前提とした受講マナーで授業に参加すること。特別な理由(路線の運休、法定伝染病など)のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	50%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	レポート	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)	0%		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画(1回～15回)				
回	授業内容		各回の到達目標	
1回	フローchartの表記法		フローchartの表記法とその記号を理解する	
2回	3つの制御構造		3つの制御構造(順次構造)を理解する	
3回	変数、文字、文字列、数値		変数、文字、文字列、数値の違い。C言語での開発環境を理解する	
4回	C言語でのプログラミング		C言語でのプログラミングについて理解する	
5回	3つの制御構造(選択構造)		3つの制御構造(選択構造)について理解する	
6回	多分岐命令		多分岐命令を理解する	
7回	選択構造のプログラミング		選択構造のプログラミングを理解する	
8回	入れ子の考え方		入れ子の考え方について理解する	
9回	確認試験		確認試験	
10回	3つの制御構造(反復構造)		3つの制御構造(反復構造)について理解する	
11回	反復構造の制御の流れを変える命令		反復構造の制御の流れを変える命令について理解する	
12回	反復構造のプログラミング		反復構造のプログラミングについて理解する	
13回	多重ループ		多重ループについて理解する	
14回	3つの制御構造の混合問題		3つの制御構造の混合問題	
15回	総合演習		これまで学んできた内容を総合的に活用できる	